

(IV－30) 地域風土資産の研究手法の課題とデータベース化への検討

ジオスケープ 正会員 前平 明男
ジオスケープ 正会員 須田 清隆
ジオスケープ 正会員 本田 陽一
ジオスケープ 正会員 村田 郁生

1. はじめに

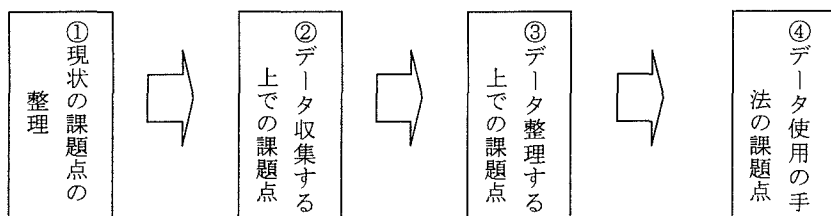
自分の住んでいる周りにどんなものがあるのか、伝えられているのかを調べようと思っても目的の地域を限定して検索する事は難しい。

歴史的、文化的なものや伝説、いわれの残る場所、地物、鉱物などを調べようとした場合、そのものの項目ごとに分類されているものは多いが、その地域を特定して分類を計ったものはあまり見受けられない。

地域毎の検索が可能となれば、その地域を知らない人の、地域風土の概要把握に役立つものと思われ、その地域の整備事業を検討する上で、地域風土の活用を簡易に図る事ができるものとする。

本研究では、地域風土資産の研究手法の課題点を分類し、データベース化を計る際の検討項目を抽出する事を目的とする。

2. 地域風土資産活用化のフロー



今回は上記の①、②について検討を行なう。

3. 現状の課題点の整理

風土工学論の竹林の分類によると地域風土は次の六大風土に分類できるとしている。

それは下記の分類方法である。

地圏	地形、地質
水圏	水面、流水
気圏	気候、日照
生物圏	動植物
生活産業圏	人口、産業
歴史風土圏	有形文化財、無形文化財

左記のように風土資産と呼ばれるものには多様なものがあり文献等多岐に及んでいる。地域を調査する際に参考にする文献として、地域ごとにまとめられた町誌、市誌や各種の専門誌などがある。また観光などを目的としたガイドブックなどがある。また現地において地元の方に確認する聞き取り手法なども考えられる。

市誌や各種の専門誌などは項目ごとに多岐に及び、調査するのに多大な時間を要する。

ワード：地域情報 地域風土 調査方法

連絡先：東京都港区北青山2-5-8 / TEL03-5410-2366 / FAX03-3404-4181

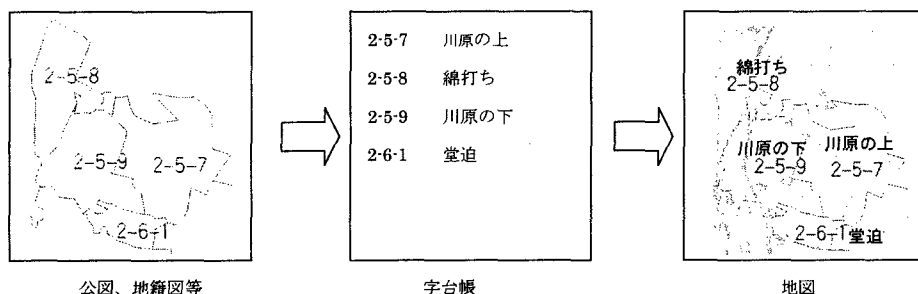
またガイドブック等はその分野が特定しており地域風土全般についての記述が少ない。
聞き取り調査は地域の人々が感じる風土資産を把握するため非常に重要だが、多大な労力を要した被験者の解釈レベルによるところが大きく、風土資産全般を得る事ができるとは限らない。
このように地域風土資産を調査する場合多大な労力を要しなければならない。

4. データ収集する上での課題点

ここでは実際にデータ収集する上での課題点を述べる。

地域風土資産の一つ、前述の分類でいくと生活産業圏である地名特に字についての調査手法を述べる

字は町や村の中の一區画でその中には大字、小字がある。大字は昔、町や村であったものが明治初年の市町村制施行の際にまとめられたもので、いくつかの小字を含むものである。



行政庁において字界図を一覧図に作成しているところもあるが、地名地番を調べ税制課に置いてある字台帳により字名を調べる所も多い。そうして調べた字を地図に落とし込み字界図を作成していく。もしくは文献などに記されている字を地図に落とし込む。

字以外でも風土資産を調査する上で各項目毎の検索はしやすいのだが、ある特定した地域の検索を行なおうとした場合は各項目ごとにその地域を確認していかなければならない。
このように地域風土資産、特に特定地域の風土資産の検索が容易でない事がデータ収集する上での課題である。

5. おわりに

前述において課題点を述べたが実調査する上ではこれら以外にも課題点があると考えられる。

また風土資産を調査した場合もその抽出方法は人為的であり、分類項目、手法なども多種多様になってしまう事が考えられる。さらに調べあげた風土資産なども、それら情報を一元管理する統一した基準がないため汎用性がなく、あまり一般的に利用されるまでに至っていない。

このように今後も引き続き課題点の抽出を行なうと供に、フロー③④のデータ整理手法や使用の手法についても検討を進めていくつもりである。